

新地 羽区

ふくしの和

題字 長澤 茂

第13号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 中村 信男
編集人 松村 清見
港北区新羽町2445
☎(542)7681

民生雑感

民生委員総務 西山 登

戦争が終った頃、新羽町は農家主体で約二百戸。民生委員は一人であつた。受持世帯数からみれば今と変りないが、地域が広いのと電話は無し、自転車位だったから苦勞も多かった事と思われる。

昭和三十年代に入ると第二次産業が次第に盛んになり、新しく移り住む人も年毎に増え現在は約三千世帯を十六名の委員が受持つてゐる。

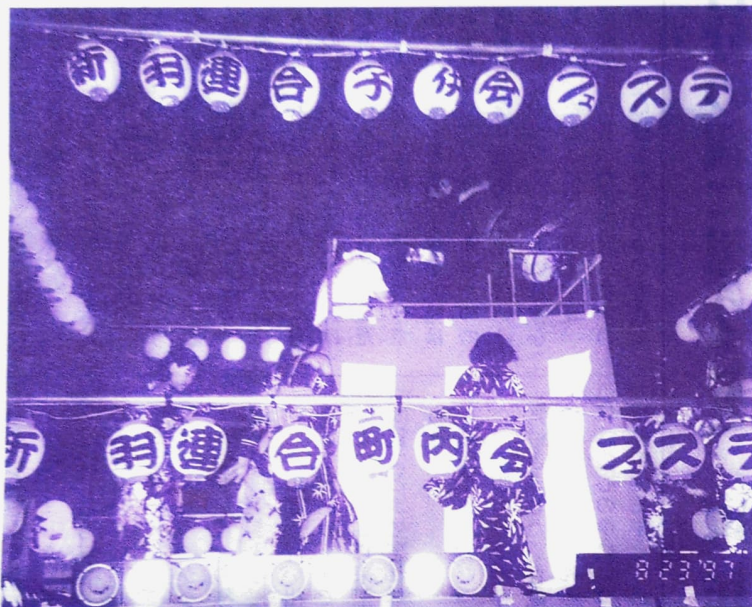
この間健康保険が出来て誰でも気軽に医療を受けられる様になりお陰で年々寿命も延びて人生八十年時代を迎えたが、物・金が優先して人の心が冷たくなってしまった。長い余生を快適に過すのも容易ではない。行政・地域社会も真剣に老人問題に取り組んではいないが笛吹けど踊らずで諸施策がやや上すべりしている感否めない。人は感情を持った不思議な生きもの、福祉に立ち入り過ぎると反発され、距離を置くと言われ、誰でも確実な老いを迎え、楽しい日々を送る為にも、素直な心で支援の手を受け入れてほしいと思ふ。

新羽連合フェスティバル

中之久保子供会 砥石春美

平成九年八月二十三日(日)新羽中学校校庭に於て、第六回フェスティバルが開催されました。

当日は、かき氷、焼きそば、焼鳥、ラーメン、ポップコーン、駄



菓子、ラムネ飲料、アイスクリーム、フランクフルト、おでん、スーパードールすくい、輪投げ、当てくじ、光るおもちゃ等々、多数出店し、沢山の人が大変賑いました。

盆踊りが始まってすぐ、すごい勢いで雨が降り出し、一時中断となりましたが、なんとか雨が上がり、再開出

来てほっとしました。

子供達は、夜友達と合

う嬉しさと夜店に夢中

で、盆踊りは大人の方

がほとんどでしたが、それぞれに

夏の夜の一時を大いに

お楽しみいただけたと思

います。多くの方々のご協力

ありがとうございます。ご

企業における福祉活動

ヨネヤシデザイン社長 米山由男

新羽地区社会福祉協議会の皆様には、日頃地域の福祉のために熱心に活動され、本当にありがとうございます。地元で事業を営む者として厚く感謝申し上げます。

長い景気低迷で沈滞ムードの昨今ですが、この様な時代にこそ、人と人との結びつき、お互いの理解と協力を強めていくことが何より大切ではないかと思ひます。

企業が福祉のためになし得る事は、中広くさまざまなケースが考えられ、私共もこれまでにささやかながら協力をしてきました。その中には失敗もあり成功もありでしたが、今後ともできるだけの努力をしていくつもりであります。

企業の立場からすれば、やはり事業を通じて貢献することが本筋であろうかと思ひます。

手前味噌になるかも知れませんが、当社の仕事柄、花と緑を美しい街づくりやご家庭に提供すること、生き物を育てることで豊かな情操を養うこと、これらが期待できれば私共としてこんな幸せはありません。

また企業が地域の活性化と経済発展に役立ち、企業自身も利益の社会的還元を心づけないことによつて、地域の福祉の基盤を支える力になればと考えております。



新羽地区社会福祉協議会

年 新 賀 謹									
常務理事	相 談 役	副 会 長	理 事	事 務 局	監 事	委 員 長	副 委 員 長	委 員	委 員
西山 登	長澤 茂	金子米太郎	中村 信男	鈴木 義一	永井 喜男	松村 清見	松村 清見	松村 清見	松村 清見
中山 福平	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男
中山 安	柴田 周	桑畑 良雄	中村 徳次	長谷川武明	秋本 義雄	土岐 章臣	永井 喜男	永井 喜男	永井 喜男

中之久保町内会

丙寅 比嘉 和子

兄の四十九日の法要について、義姉とお寺に伺いました。知らない事ばかりで、奥様にいろいろとお聞きしました。その時、亡くなった両親の事も教えていただきました。

思えば、二人共典型的な明治人間で働き者、殊に母は子供や夫に尽くすために生まれてきたような人でした。強く、聡明で厳しく、気骨というか、何か違ったものを持っている人でした。早起そして仕事の手際よさ、いつも動いて働く事を苦にしない。それに、子供の躾けは厳しかった。年齢に合った仕事を与え責任を持たせる。門限が過ぎたら家に入れてもらえない。人の事をいおうものなら、「相手の事を先に思いなさい」と、

聞いてもらえない。このように親の言う事は絶対だったのです。でも厳しだけでなく、年に何回か家族でお弁当を持って出掛け、一日楽しく過ごした思い出もあります。裕福でもなかったのに、やはり尊敬できる親でした。又、すごいのは「勉強しなさい」と一言もいかなかった事です。「上の学校に行きたかったら、いけばいい」と夜なべまでして仕立物をして、学校にいかせてくれました。こうなると、もう頑張るしかなかったのです。これが親の教育方針ではなかったのでしょうか。

親は亡くなるまでに子供に大切

なものを残していく、とよくいわ

れます。自分なりにこれだと思いい子供達にこの方針を実行してきたつもりですが、当の子供達は今の

のように思っているのでしょうか。

今自分の記憶の中の両親は、厳しかったけれど、時には「タガ」をゆるめてみたりして、一人前に育ててくれたのだと思います。日常の母親の姿から自然に身に付けた事も沢山あります。でも一つだけ、当時の一人息子は皆そうであつたのかとも思いますが、兄はあまりにも大事にされすぎたので、用心深くなり、飛ばなければいけない時に飛べなくなっている様な処があつたように思います。今、両親の所に行った事としたいと思います、今度は厳しい世の中でも頼ら

自分の親に思うこと 寅年生

ず生きていける様な人間に育ててほしいと、仏壇の三人の写真の前でお願いというか、苦笑いをしてしまいました。

中之久保町内会

庚寅 荒木 緑

三年前の秋の事です。前日まで元気に庭の手入れをしていた父が突然、脳梗塞で倒れたと言う知らせがありました。

日一日と弱っていく父の姿を見て「まだ何も親孝行していないのに」と、毎日祈る思いで病院へ行きました。

そんなさなかな新羽小学校で音楽

会がありました。子供達の歌声が

体育館に響きます。「大きなノッポ

の古時計おじいさんの時計、百年

いつも動いていたご自慢の時計さ

……今はもう動かないこの時計」。

いつも口ぐせの様に「元気で百

歳まで長生きするんだ。」と言つて

いた父の顔が思い出され、涙があ

ふれてきたのを今でも良く覚えて

います。それ以来「大きな古時計」

は私にとって忘れられない曲とな

りました。

頑固で働き者だった父、いなく

なつて始めてその存在の大きさに

気付きました。百歳までは長生き

できなかったけれど、この曲と共に

私の心の中にいつまでも生きつ

づけています。

中之久保町内会

壬寅 高橋 稔

親元を離れたのが十七年前。好

きで親元を離れたわけではない。

学校にきた就職案内をよく見な

かったばかりに静岡県の片田舎

から縁あって神奈川県にきてし

まったのである。まったくのおっ

ちよこちよいから出た結果である。

あつて、親から見れば心配であつ

たようである。その息子が親元を

離れるのだから、いてもたっても

いられないほどであつただろう。

バイクで帰省した際など、パツ

クミラー越しにいつまでも見送る

親の姿を見たときには、泣けるほ

ど親の気持ちがあつた。子供の

ためになどとは口にすることのな

い親であつたが、なにげなく分か

る親の愛情は今もつてありがたく

思う。

そんな私もいつのまにか年を重ね

ね、今では小学校二年生を頭に二

人の子供がいる。ようやく子育て

の難しさがわかってきた。きつと

いつかは親と同じ思いをするので

あるが、とりあえずは親から教

わつた何気ない愛情で子供と接し

てみようと思う。



てみようと思う。

私によく似たおっちよこちよいの二人の子供には、何十年か先にもわかつてくれればいいような

気長な気持ちで。

中央町内会

甲寅 秋元 義礼

私がやることに対してすぐに口を出している事が迷惑である。

私は、今年社会人になり会社に入社した。勤めるようになった。

会社から帰ってきて夕食を食べながら外出をする。その事に対して

でもすぐに口を出し、「働いている

のだから早く寝なさい」。などと

言ってくるのである。

確かに、親というものは自分の

子供が、大切であるから故に、そ

のような事に対して、一言、二言

言いたくなるのは、心からわかり

感謝をしている。

現に、私は夏の疲れが出て、夜

中に病院に運ばれた事がある。そ

の時には心配をかけたが、親は、

私に「夜遊びに行くからこのよう

な事になるのだ」と言っていた

が、それは違ふと私は思う。

去年までは学生生活をしていて

楽に生きてきたが、いざ今年にな

り社会人という自分の行動に対し

ての、責任というものが学生とは

違った立場を世間の人々が見てい

る中で、私にかかってくるプレッ

シャーにより、体調を崩してしま

ったのである。

こういった事を言う他人から見

れば、自分自身を美化している

と思われるかもしれないし、親の

立場から視点を合せる人がいれば

親の行動は間違っていないと思わ

れるだろう。その事に対しては私

も共感できるが、私も社会人にな

ったのだから自分の行動は自分

自身が責任を取るのが当然である。

世間がそんなに甘くはない事も、

自分自身でわかっているのだから、

私自身、一人の大人。中・高生とは

違ふのだから。

私はこれから先、自分の事は、

自分で責任を取っていくので、心

配になる部分はあるかもしれない

が、あまり口を出すのは止めてほ

しいと思う。

新羽の子供に思うこと

(一) 新羽小学校副校長

井上恭子

自然環境抜群。一つの町に、小学校、中学校そして、高等学校、いや幼稚園まで存在している町、新羽町。何と贅沢な、学園都市新羽町であることか。

しかし、そこに住んでいる子ども達は、この恵まれた素晴らしいを、自覚しているでしょうか。

「イエス」とは、答えられないかもしれません。人間往々にして、自分の幸せや、恵まれていることには、気づかないものですから。

昔前までは、人生の先輩者である大人の生きる姿がすべて、参考になり、子や孫に受け継がれて行きましたが、最近のように情報が溢れ、情報選択をするのに苦慮する時代では、生きる姿だけでは、インパクトが弱いようです。

学校として、伝統になりつつある芋煮会や校内音楽会。地域の伝統行事などについても、後世に引き継ぐことは、常に苦勞が伴います。

しかし、新羽地域の自然環境・

教育環境ともに、この環境を後世に残してやりたいという、先輩の方々の強い願いや努力の賜であることを、あらゆる場で、常に強調していく必要があると思います。

これからは、新羽を新たな故郷として、移り住む人も増える時代です。新羽の町も変化せずにはいられないでしょう。

しかし、穏やかで明るい新羽っ子を見ていると、今ある環境を大切に守り抜き、これからも心の温もりを感じる町「新羽」でいて欲しいと、願わずにはいられません。

(二) 新羽中学校副校長

佐々木甚大

四月に着任したとき、たくさんのお水仙が今を盛りと、よい香りを漂わせていた。桜の根元にはスズメのお墓が作られていた。

ここで生活している人たちの心の優しさと、豊かさを感じた。

一学期には一年生のふれあい教室、二年生の自然教室と宿泊行事に参加できた。寝起きを共にすると親しみもわき、子供たちのこと

もよく分かった。家庭でのしつけもかなりのものと安心もした。

恵まれた自然環境の中で、教師と生徒の人間関係がうまくかみ合い、小規模校の特性がうまく生かされていると感じた。

「為すことによつて学ぶ」。

いろいろな活動を経験し、確かな成長をとげている。失敗を恐れず、もつとたくましくなることを願っている。

先日、中学校のクラス会が母校の近くであった。卒業して四十年、なつかしい顔が並ぶ。担任は古希を過ぎたが、同級生と見まちがうほどのお元気であった。

人生の後半部を向かえ定年や、リストラで職をなくしたり、離婚や配偶者との死別など、人生模様もいろいろであった。家族や趣味の話に花が咲き、行き着くところは昔話。いくつになっても、どこに住んでも「心の故郷」はこども時代を過ごした土地である。

地域の一員として子供たちをどう育てて行くのがこれからの課題である。

学校・家庭・地域の連携がますます大切となろう。

もみじの会の紹介

民生委員 戸国恵子

私達は、平成八年秋に行われた、新吉田地域ケアプラザ主催の「実践ボランティア講座」や、港北保健所主催の介護セミナーを受講した方、又高齢化社会に関心を強く持っているボランティア会です。

平成九年二月四日より活動を始めました。足腰が弱り、外出の機会が少なくなった高齢者の皆様に参加していただき、楽しくお話ししたり、体操や歌に、ゲームに創作活動に和やかな一時を過ぎて頂く事を目的としています。又、介護されているご家族の方にも、少しの時間でも休息してもらえたらと願っています。

活動場所 新吉田地域ケアプラザ
日 第一、第三 火曜日
時間 午前十一時～午後二時
会の一日の流れを紹介します。

私達ボランティアは、九時半集合、ミーティングが初まり役割分担が決まります。十時十五分お迎えの車が出発します。参加者が到着しますと、保健婦さんが脈はく、血圧測定等の健康チェックを致します。

皆様がそろって、さあスタートです。当日のプログラムにそって体操、創作活動等、その後昼食になります。仕出屋さんのお弁当でご飯、みそ汁は温いのがうれしいですね。一時まで皆様と歓談、午後はゲームや歌など、楽しく、和気あいあい、活動しております。

二時終了、次回もお元気でいらして下さいと、お見送ります。そのあと反省会、次回の打合せになります。

参加者の皆様には、連絡帳があり、一日の様子、健康チェックなどが記入されております。次回お持ちいただく時、ご家庭からの連絡事項などにも利用して頂いております。

四月には近隣の公園でのお花見お天気がよく、桜花満開感激でした。

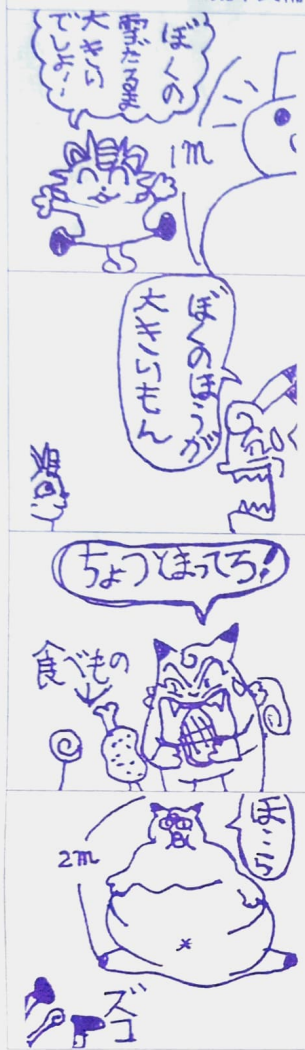
七月、七夕祭り、短冊に、それぞれ願いをこめて飾り付け、記念写真を撮りました。

九月はバスハイイク、ビール工場見学、男性の方は、御機嫌でした。又、お誕生会も行っております。その他に、ゲーム、カルタとり、創作活動では、うちわ作り、写真立てなど、皆様とても喜んで創作に励んでおります。完成した時の表情がとても嬉しそうで、私達ボランティアも心地よい思いになります。

毎月第二火曜日、運営会議があり、今後のスケジュールの打合せ、活力あるボランティアの皆様が太勢いらしいので期待して下さい。

現在参加されている皆様は十三名、ボランティアの方々は、十九名、保健婦さん一名、この人数は前後致しますが、私達ボランティア自身も、皆様をお世話するだけでなく、人生の先輩の方々より得るものが大きく、喜んで参加させて頂いております。

雪だるま

小6年生
荒木大輔

車椅子を使用して

黒沢 浩

私は、八十一歳になる父親をもつ者です。その父は、十年位前に脳梗塞を患らい、左半身が麻痺し歩行も困難な状態になり、今日まで来しました。今までは通院時にはどうか家内が介添えをして、マシンの玄関まで歩いて、タクシーにて行っていたのですが、八月に入り家内が体調をくずし、介護施設にショートステイをお願いし、その施設まで連れて行くのに、どうしても車椅子が必要になり、民生委員さんに相談したところ、心良く車椅子の手配をして頂き、本当に助かりました。



又、施設より帰って来る時にも車椅子のお陰で、危なげなく帰宅出来ました。

父親にとつての、足变りの車椅子を、お借り出来た事を、家族一同御礼申し上げます。本当に有難度う御座居ました。

南町内会

五年生 松本 悠

バスに乗る時、酔うなと思いつても乗りました。やっぱり酔ってしまつたけど、ようやく昼食所に着いて、お弁当を食べたり、遊んだりして楽しかったです。

このま沢キャンプ場のバンガローで休み、その後、水着に着がえて川で遊びました。魚がいっぱいました。とても楽しかったです。

バンガローで、友だちといっぱい遊びました。夕食もおいしかったです。

夜のキャンプファイヤーで、帽子をかぶって、会った人と、ジャンケンし、勝った人が相手の帽子

このま沢キャンプの思い出 平成九年八月

をとるというゲームをしました。勝った時は、うれしかったけど、負けた時は、くやしかったです。それから、遊んでねました。とても楽しかったです。

中之久保町内会

五年生 上村ひろこ

このま沢キャンプにさんかして他の学年の人とも、とても仲良くなりました。夏休みのとてもよいおもいでになりました。

大竹町内会

中学二年生 西村絢子

小学生、中学生関係なく、皆で楽しく一泊二日過ごせました。また来年も参加したいです。

中央町内会

四年生 金子智実

はじめてとまったバンガロー何もなくてびっくりした。荷物を入れ私達の部屋ができて楽しかった。

自治会

二年生 松山みゆき

キャンプのとき一番楽しかったのは、川あそびです。少しつめたかったけどおもしろかったです。

新羽町内会

四年生 岡野まさや

キャンプに始めてさんかして、川遊びがたのしかったけど、いろいろなことをやったのでつかれました。

北新羽町内会

五年生 吉野麻里恵

友達や、リーダーと川で泳いだり、深い所へ行ったり、がけから川へとびこんだりしたこと、夜深しをし、トランプで遊んだこと、一言で言えないほど楽しかった。



このま沢キャンプ

「光友会」

ふくしの村を訪ねて

尾出育代

この村の就労社会センターは、総合調整部門、生活部門、就労部門の三つの部門があり、その内の一つの就労部門では、定員五十名で、さらに製パン・印刷・点字・軽作業の四つの部門に分かれて、作業をしていました。製パン部門は、菓子パン三十種類、パウンドケーキ五種類と豊富にあり、又食パンは受注で焼いているそうです。身体障害を乗り越え頑張っている姿を見て、健康の有り難さを深く感じる一日でした。



帰 幽

平成九年七月四日 逝去

前新羽地区社会福祉協議会々長

小山 勇 吉 様

地区社協活動に、初代会長として多大に貢献されました。心よりご冥福をお祈り致します。

健民祭について

賞品係 一同

六月下旬頃から、体育指導員、青少年指導員が集まり、役員人事を決め、八月下旬には各町会から集まった本部役員中、賞品係は、十四名と決まりました。

協賛していただく企業に挨拶回りをして、九月中旬からは、企業から出していた商品を集め始め、ほぼ商品が揃ったのが、十月初旬になりました。

体指、青指の役員と一緒に振り分けを考えました。そこでは食べ物と石けんなどは、別にしようとか、町内会対抗競技には、沢山商品を出そうとか、いろいろな意見を出してもらいました。

そこで賞品係は、体指、青指の有志の人達にも手伝ってもらい、三回に分けて袋詰め作業と、前日再度数の確認作業、計四回で準備が完了しました。

当日は競技順に賞品を並べ準備し、競技終了ごとに賞品を渡しましたが、忙しかったのは、ウルトラクイズで、賞品を渡す時、競技者が多くて、大変でした。

協賛していただいた企業、並びに役員、有志の皆様本当にありがとうございました。新羽地区健民祭が永く続くように願っています。

編集後記

今回より、「ふくしの和」は年一回の発行となりました。原稿をお願いした皆様ありがとうございました。